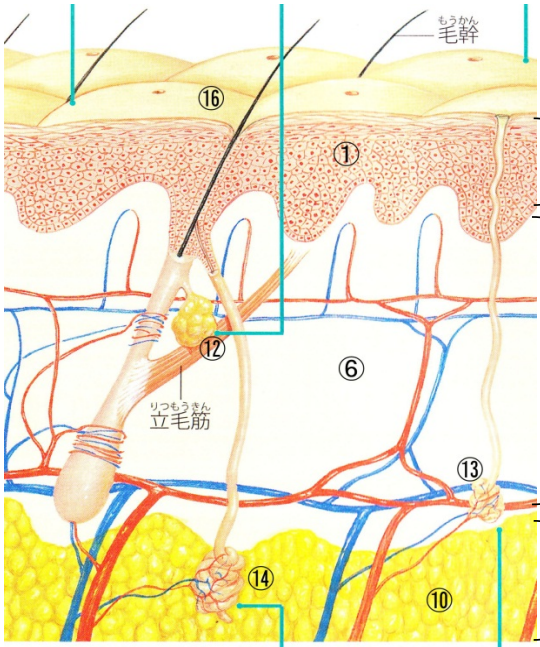


美容保健 (皮膚科学) 第1章・第2章まとめ

●皮膚の断面



- ① (表皮)
  - 2 (角化細胞)
    - 95%を占める
    - (角質層) 一番上・・・ (ケラチン) というタンパク質からなる。ケラチンは、化学薬品、熱、寒冷などの刺激に強い。
    - 顆粒層
    - 有棘層
    - (基底層) 一番下
    - 順次上へ変化していく現象を (角化) という
  - 3 (色素細胞)
    - (メラニン) をつくる
    - (基底細胞) の間に点々と存在する
    - (メラニン) は (色素細胞) でつくられ細胞突起を経て (基底細胞) に与えられる
    - 皮膚の色の白い黒いは、(メラニン) の量による。
  - 4 (ランゲルハンス細胞)
    - 免疫に関する細胞
  - 5 メルケル細胞
    - 触覚受容に関与
- ⑥ (真皮)
  - 7 (膠原線維)
    - 真皮の大部分を占める
    - (コラーゲン) というタンパク質からなる。
    - 機械的外力や化学的刺激に強く外界の影響から身体内部を保護
  - 8 線維と線維の間は (基質) という物質で埋められている。物質代謝の役割
    - 年齢が進むにつれ減少 → 代謝が悪くなる → 皮膚の老化
    - 肥満細胞が存在する (蕁麻疹などのアレルギーに関与)
  - 9 (弾性線維)
    - (エラスチン) というタンパク質からなる
    - 皮膚に弾力を与える
    - (高齢) になるにつれ減少
- ⑩ (皮下組織)
  - 10 (脂肪)
    - (脂肪) が蓄積する。脂肪細胞で作られる。
    - (脂肪) の量は体の部位によって著しく異なる
    - 機械的外力から身体内部を守るクッションのような役割
    - 外界の温度の変化に左右されないよう断熱材の働き
    - 余分な栄養を脂肪として蓄える
    - 脂肪のたまる部位は男女によって異なる
- ⑬ (小汗腺)
  - エクリン腺
  - (皮膚表面) に開口している
  - (体温調節) の役割
  - 全身のほとんどに分布しているが、特に手掌・足底に最も多く分布。次に額
  - (酸性) の汗
- ⑭ (大汗腺)
  - アポクリン腺
  - (毛包) に開口している
  - 限られた部位に存在 (腋窩など)
  - 思春期になってから機能を発揮
  - (アルカリ性) の汗、臭いがある
  - ワキガ
- ⑯ (脂肪膜)
  - (汗・皮脂) が乳化状態のもの
  - (弱酸性) 皮膚表面を覆っている
- 立毛筋
  - 真皮乳頭部分と (毛包) をつないでいる
  - 収縮すると (トリハダ反応) という
  - 立毛筋は平滑筋 (意思によらない自律神経によって働く筋) である